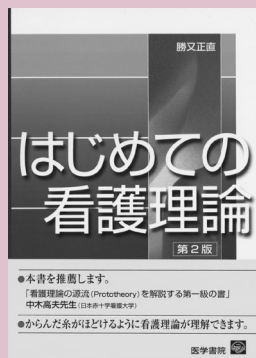


(看護理論は苦手、嫌い、わからない、) というあなたへ



はじめての看護理論 第2版

勝又正直 著 A5判・264ページ 定価 2730円(本体 2600円+税 5%)
ISBN 4-260-33387-9 医学書院 2005

評者

広井良典
千葉大学法経学部教授

この本の帯に「からんだ糸がほどけるように看護理論が理解できます」という表現がある。本書の特徴を實に見事に言いあてた言葉であるように思われる。

私は、看護学そのものについては半ば門外漢に近い。しかし、近接領域にかかわるなかで、看護理論が「からんだ糸」のような面を多分にもっていることはつねづね感じてきた。その背景には、看護学が医学や心理学等関連分野のなかでみずからのアイデンティティの確立に苦闘してきた流れや、また、とくに日本の文脈では、(看護学に限らない)“輸入学問”のもつ独特の難解さがあったと思う。

本書はそうしたなかであって、その明晰さとわかりやすさにおいて、ある種「飛び抜けた」性格の本である。そのことを初版の時点から感じてきたが、このたび内容がさらに拡充された第二版が医学書院から出され、本書が看護学分野の標準的なテキストの一つとして広く読まれることになるであろうことを、まず単純に喜ぶたい。

「難しい内容をわかりやすく」

著者自身があとがきで記しているように、日本では「簡単な内容を難しく説く」教科書や書物の類が多

い。本書はその対極にあり、著者みずからが原案を書いたイラスト——このこと自体類書のなかでは異例と言える——とあいまって、信じがたいほどのわかりやすさでさまざまな看護理論の系譜とその内容、背景、現代や臨床現場にとっての示唆等々が論じられている。なかでも、社会学、心理学、文化人類学等、関連諸分野の影響や布置関係という大きな文脈のなかで、さまざまな看護理論のポジションや意味を鮮やかに位置づけている点が大きな特徴と言え、記述の平易さとは対照的に、内容は最高水準かつ先端的なものとなっている。加えて、「はじめての看護理論」というタイトルのとおり、主要な看護理論のエッセンスを順次整理・理解していくというスタイルをとりながら、本書を全体として見ると、そうした次元にとどまらない、いわば“「ケア」についての新たな理論枠組みの構築”(への基礎作業)といった性格をもっていることを読者は感じるであろう。

あえて要望を述べるなら、改訂版という機会を使って全般的に最近の文献・議論の紹介などを行なってもよかったのではという点があるが、本書はある種の完結した全体性をもっている書物であり、これらは著者自身があとがきでふれている次の著作に期待するとともに、まずは本書が教育、研究、臨床等の各場面を通じ、看護分野において広く読まれることを願いたい。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。